

中間評価シート

中間評価（表紙）

国見町歴史的風致維持向上計画(平成27年2月23日認定) 中間評価(平成27年度～令和元年度)

■ 統括シート(様式1).....	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 阿津賀志山防塁の保存・活用に関する方針.....	3
II 伝統を反映した人々の活動の継承.....	4
III 歴史的建造物と町並み保全・活用.....	5
IV 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善.....	6
V 歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進.....	7
VI 歴史文化遺産の総合的な把握の推進.....	8
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 観光来客数の増加.....	9
ii 文化財の継承・啓発活動の充実.....	10
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 情報発信拠点整備事業.....	11
B 文化財保存ガイダンス施設整備事業.....	12
C 無形民俗文化財活動支援事業.....	13
D 地域の文化遺産の総合的な把握のための調査事業.....	14
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 阿津賀志山の合戦と顕彰・教育活動にみる歴史的風致.....	15
2 旧奥州街道藤田宿における歴史的風致.....	16
3 旧奥州街道貝田宿にみる歴史的風致.....	17
4 石蔵と石工技術にみる歴史的風致.....	18
5 光明寺集落の水利用にかかわる歴史的風致.....	19
6 内谷春日神社の祭礼にみる歴史的風致.....	20
7 鳥取福源寺観音講にみる歴史的風致.....	21
■ 庁内体制シート(様式6).....	22
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7).....	23
■ 全体の課題・対応シート(様式8).....	24

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	阿津賀志山の合戦と顕彰・教育活動にみる歴史的風致	I・IV・V	
2	旧奥州街道藤田宿における歴史的風致	II～VI	
3	旧奥州街道貝田宿にみる歴史的風致	II～VI	
4	石蔵と石工技術にみる歴史的風致	III～VI	
5	光明寺集落の水利用にかかわる歴史的風致	II～VI	
6	内谷春日神社の祭礼にみる歴史的風致	II～VI	
7	鳥取福源寺観音講にみる歴史的風致	II～VI	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	阿津賀志山防塁の保存・活用に関する方針		
II	伝統を反映した人々の活動の継承		
III	歴史的建造物と町並みの保存・活用		
IV	歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善		
V	歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進		
VI	歴史文化遺産の総合的な把握の推進		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	観光来客数の増加		
ii	文化財の継承・啓発活動の充実		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	情報発信拠点整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	文化財保存ガイダンス施設整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
C	無形民俗文化財活動支援事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
D	地域の文化遺産の総合的な把握のための調査事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
方針	I 阿津賀志山防塁の保存・活用に関する方針	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 史跡の日常的な維持管理が行き届かず、歴史遺産の本来持つ姿が失われる危険がある場所が存在する。また、顕彰、教育活動の場として整備が十分でなく、アプローチの不便さから史跡見学者が限られ、阿津賀志山防塁の認知度や関心は、決して高くはない。

【方針】 保護・顕彰活動の場であり、教育活動の場である阿津賀志山防塁は、「阿津賀志山防塁保存管理計画」に基づき適切な保存と、発掘調査を進めている。アクセス道や駐車場の整備とともに、史実と史跡を時代・空間軸の中で理解・体感できるようガイダンス機能の充実を図るとともに周辺環境を含めた保存と活用の一体的な整備を推進する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	阿津賀志山防塁史跡整備事業	下二重堀地区：雨水排水設備工事、L=268m	あり	H27～R6
2	阿津賀志山防塁史跡アクセス道改修事業	接続する町道の改良(L=772m) ・駐車場の実施設計	あり	H30～R4
3	阿津賀志山防塁歴史公園整備事業	下二重堀地区：実施設計を実施	あり	H30～R4

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●阿津賀志山防塁史跡整備事業

阿津賀志山防塁史跡整備基本構想(H27)と同基本計画(H30)を策定し、発掘調査、国史跡の追加指定(H27・H30・R1)を進め、公有地化の拡大を図った。また、大雨等の自然災害による史跡のき損(土砂崩れ等)を防ぐため、暗渠管設置等の雨水排水設備工事(R1)をはじめとした史跡整備工事を実施した。

●阿津賀志山防塁史跡アクセス道改修事業

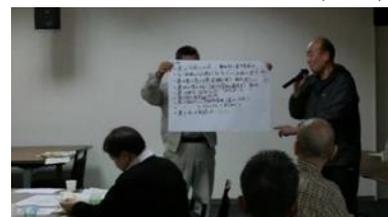
国道4号北側地区において、史跡へのアクセス性向上のため、歩行者・車両等の進入が困難となっている町道を改良(H30・L=772m)した。また、下二重堀地区において、現道と一体となった駐車場の実施設計(H30)・用地取得(R1)を実施した。

●阿津賀志山防塁歴史公園整備事業

史跡整備と一体となった周辺整備を進め歴史公園を整備するもの。地権者・住民説明会、パブリックコメント、ワークショップを実施し、基本計画を策定した(H30)。また、下二重堀地区における歴史公園の着工に向けた実施設計(H30)、公有地化(R1)を進め、造成工事を発注(R1)した。また、公園が住民参画による運営になることをめざし、住民団体「くにみ阿津賀志山防塁活用推進懇談会」の活動(ワークショップの開催)を支援した(H30・R1)。



雨水排水設備工事を行った下二重堀地区 (R1.10)



住民ワークショップの様子(H31.2)

④ 自己評価

阿津賀志山防塁は、史跡整備と歴史公園に関する基本構想及び基本計画を策定し、史跡の保存を図るとともに、歴史公園整備事業に着手することができた。公園整備段階から、住民との意見交換を重ね、歴史文化資源を有効的に利活用した公園の活用・運営などについて連携による取り組みを推進している。

⑤ 今後の対応

阿津賀志山防塁の史跡と周辺整備を整備基本計画に基づき引き続き推進する。下二重堀地区は、歴史公園整備事業に着手したところであり、また、公園整備後の活用についても、住民団体との連携を図り、住民主体・連携による管理運営に向けた基盤づくりに努める。また、他地区の防塁についても引き続き調査を進め、追加指定をめざす。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
方針	Ⅱ 伝統を反映した人々の活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 少子高齢化、若年層の転出などにより伝統を反映した人々の活動を継承する担い手の確保が困難となっている。また、高齢化によって地域行事などの参加者が少なくなり、慢性的な人手不足が続いている。これにより祭礼の簡略化が進み、本来の活動の継承が危惧される状況にある。

【方針】 祭礼や伝統芸能の継承を支援するために、地域固有の祭礼や伝統芸能に対する調査を通じて、「誇り」「郷土愛」を取り戻してもらう契機となるよう取り組む。その中で、無形民俗文化財の国・県・町による文化財指定に向けた取り組みを検討し、可能なものは積極的に支援する。また、地域の人々が地元の伝統的な活動を知り、触れることで積極的に参加できるような環境整備を進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	無形民俗文化財活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 映像記録作成(全26座の神楽を収録) 神楽面修繕(3面) 神楽教室(毎年10回程度)、フォトコンテスト(H27以降)の開催支援 小学校における太々神楽体験学習(年1回) 教育普及本(3000部)、ガイドブック(4,000部)作成 保存継承団体に対する補助金(2団体) 	あり	H27～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●無形民俗文化財活動支援事業

町指定無形民俗文化財である「内谷春日神社太々神楽」「鹿島神社例大祭」の2件について、活動支援事業を行った。

【内谷春日神社太々神楽】

同保存会とともに映像として神楽記録を作成し、伝承されている座(演目)だけでなく、中断した4座を復活させ、全26座を記録することができた(H27～29: 詳細13ページ)。また、神楽に用いる全12面の神楽面のうち、傷みの激しい3面を修繕し、継承環境の整備を行った(H30: 詳細13ページ)。

また、担い手の育成を目的として、「小学校における太々神楽体験学習」の実施(H26～)、「子ども神楽教室」の開催を支援した(H27～)。神社のある地域を越えて町内全域から教室生を募集し、毎年新たな子どもたちが活動に参加し、例大祭や各種催しで神楽を披露している。さらに、神楽の歴史や演目のストーリー(神話)を解説する教育普及冊子を作成し、前述の教室生や小中学生・来訪者に配布し、理解を広めた(H28)。

【鹿島神社例大祭】

保存会・若連などによる主体的な保存継承活動が行われている。祭礼の歴史と特徴的な山車行事に対するガイドブックを作成し、祭礼当日に配布することで理解を広めた(H27)。また「フォトコンテスト」の開催を支援し、例大祭の魅力のPRにつながっている。



作成した教育普及冊子・ガイドブック



鹿島神社例大祭フォトコンテスト
最優秀賞作品(R1)

④ 自己評価

地域住民が守り、伝えてきた伝統を反映した人々の活動を継承するため、様々な方法で支援を行った。内谷春日大社太々神楽は、ガイドブック作成や町内全域の子どもたちが神楽に参加できる教室を開講したことにより、将来の担い手として継承に向けた取り組みを具体的に推進することができた。鹿島神社例大祭では、若連によるフォトコンテストの開催を支援することにより、普及啓発や継承に関わる意識の醸成につながった。また、いずれの支援事業においても、その過程において関係者の意欲向上につながり、その成果において町内外での関心を高めることにつながった。

⑤ 今後の対応

各事業の成果による町内外の関心の高まりが、地元・関係者の「誇り」「郷土愛」につながり、更なる伝統を反映した人々の継承に向けた取り組みにつながる好循環を生み出せるよう、無形民俗文化財に対する絶え間ない支援を、方針に基づき継続して進める。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
方針	Ⅲ 歴史的建造物と町並みの保存・活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】所有者や地域住民は、町内の建造物等が貴重な文化財であることの認識が希薄であるため日常的な維持管理が行き届いていない。また、家主の高齢化、後継者である若年層の転出により、良好な歴史的町並みを形成する建造物が放置され経年劣化が進んだり、取り壊されたりしている状況になっている。

【方針】国または県・町の指定文化財あるいは登録有形文化財は、文化財保護法や福島県及び国見町文化財保護条例に基づき適切に保存・活用を図る。指定されていない歴史的建造物については、「歴史まちづくり法」に基づき、本計画で定める歴史的風致形成建造物の指定基準に則り、積極的に指定を検討する。また、本町を特徴づける町並みを形成する石蔵、町屋、養蚕住宅、寺社などは歴史的建造物であり、その保存と活用を図るための調査研究を進める。補助制度等を創設し、公的・民間補助制度の活用を積極的に進め、歴史的建造物や町並み及び石蔵の保存・活用に向けた施設の充実を図る。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	歴史的町並み調査事業	町全域で建造物悉皆調査を実施(3281件)	あり	H27～H28
2	国見石保存・活用調査事業	旧小坂産業組合石蔵が国登録有形文化財に登録	あり	H27～H29
3	民間所有の歴史的建造物の保存に関する支援	国見町文化財保存事業補助金による支援(1件) 国見町木造住宅耐震改修等補助金による支援(2件)、国見町空家バンク設置(H28～)	なし	H26～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●歴史的町並み調査事業

町内の歴史的建造物を把握するため建造物悉皆調査(1次調査:外観)を実施した(H27～28)。民家3200件、寺社仏閣81件を確認し、調査の結果、典型的な特徴を有する建造物が351件確認され、今後の歴史文化資源の保存と活用、歴史文化基本構想の策定に向けた把握ができた。調査成果から、鳥取福源寺地蔵庵観音堂を町有形文化財(建造物)に指定した。(H30.3)



悉皆調査の様子(H27)

●国見石保存・活用調査事業

郡山女子大学と連携し、旧小坂村産業組合石蔵と伊藤石材店石蔵、大木戸宮原の石蔵の測量及び調査を行い、構造や規模、史料が明らかとなった。また、町内の主な石切り場12か所の実踏調査や町内の石工に聞き取り調査を実施し、石工技術や石工道具などの記録を行った。調査の成果から、旧小坂村産業組合石蔵が国登録有形文化財(建造物)に登録され(H28.8)、町内特有の国見石と石蔵、建築技術のすばらしさを見直すきっかけとなった。



聞き取り調査の様子(H28)

●民間所有の歴史的建造物の保存に関する支援

民間所有の歴史的建造物の保存を推進するため、国見町文化財保存事業補助金により、町指定文化財の修繕1件(詳細:21ページ)の支援を実施した。また、S56.5以前の木造建造物を対象とする木造住宅改修等補助金(耐震診断者派遣・改修補助)により、歴史的風致形成建造物候補物件2件に対し支援を実施した。

このほか、管理不十分な空家等に対応する「国見町空家等対策計画」(H28.3策定)に基づく、「国見町空家バンク」の設置(H28)による有効活用の取り組みや相談・情報提供の予防対策によって、歴史的建造物・町並みの保存に関する支援制度も充実が図られている。

④ 自己評価

建造物の悉皆調査により、町内の歴史的建造物の全体像を初めて把握できたことは、特筆すべき成果である。この成果から所有者の理解と協力を得て町指定文化財1件・国登録有形文化財1件の登録につながった。また、国見石の調査では、採掘・加工・建築にいたる国見ならではの一連の加工技術の高さが明らかになったことから、その成果を活用周知事業(石工フェス)・パンフレットで発信し、保存の重要性と今後の利活用の布石とした。保存に関する補助・支援制度は、件数は限られているものの所有者との連携を図りながら実績を重ねている。一方で、歴史的風致形成建造物の指定件数は0件であり、指定の検討が進んでいない状況である。

⑤ 今後の対応

建造物悉皆調査等で把握した歴史的建造物をリスト化し、所有者と連携を図り、理解と協力を得て保存と活用に向けた取り組みを推進する。また、歴史的風致形成建造物の指定に向けた取り組みを進める。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
方針	IV 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 本町のシンボルである阿津賀志山に象徴される歴史や山並みなどの自然、そして二つの街道と三つの宿場や農村集落の町並みは、本町独自の重要な景観である。しかし、市街地や農村集落では、震災以前からの地域経済の低下と東日本大震災の被害が重なり、管理が十分ではない建造物の増加や、建物の除却による空地や駐車場の増加が目立ち、良好な景観が阻害されている状況にある。

【方針】 景観を構成する歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善方法を検討し、取り組みを進める。また、歴史的風致を維持・向上させるため景観条例の制定及び景観計画を策定するものとする。それには地域住民の協力と理解が必要であり、理解の促進を図り、モデル地区の指定などを行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	景観計画策定事業	住民アンケートの実施(H30)	なし	H30～R2
2	文化財の周辺環境の保全に関する取り組み	景観上支障となる老朽化した文化財保存施設の改修(1基)・史跡支障木の伐採(2地区)	なし	H27～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●景観計画策定事業

「国見町歴史的景観保存計画」の策定に向けた、住民アンケートを実施した(H30)。これによると町民がイメージする景観とは、自然や歴史・文化など、代々受け継がれてきたものが大半を占めている。地域の歴史や文化、特色を残しているまち並みについても半数以上が、「魅力を感じる」という結果で、住民の理解・協力を必要とする景観まちづくりにおいて、理解の涵養は今後の取り組みに資するものとなった。

●文化財の周辺環境の保全に関する取り組み

景観上の支障となっていた老朽化した文化財保存施設「義経の腰掛松」覆屋の改修(1基・H28)、阿津賀志山防塁と岩淵遺跡における史跡景観を阻害していた樹木の伐採(2史跡・H27～)を行い、良好な景観形成を推進した。



「義経の腰掛松」における老朽化施設の除去と改修

④ 自己評価

文化財の周辺環境における修景事業を行うとともに、全町的な景観保護に向けた取り組みのため、景観計画の策定を進めた。ほかの歴史まちづくりに関わる取り組みと合わせ、住民アンケートの結果には、「国見ならではの」や「国見にしかない」歴史や文化、空気感を醸し出す景観を大切にすべきとの住民意識が現れたことは大きな成果である。この住民意識の向上を貴重な財産として、今後の取り組みにつなげていく。

⑤ 今後の対応

現在進めている景観計画を策定し、景観保全に向けた制度整備を行う。町道美装化・無電柱化、奥山家住宅周辺公園整備事業などの事業に着手し、歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善に向けた取り組みを推進する。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
方針	V 歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 地域住民の理解を深め・意識を向上させるための教育普及・啓発活動は不可欠であり、そのため教育普及冊子の作成や歴史的風致に接する機会の創出が必要である。また、既存の各種パンフレットやHPIによる周知だけでは、歴史的風致を体感してもらうには不十分な状況にある。「体験し、感動してもらう」ことをコンセプトに据え、町内を周遊するルートの設定や情報提供や提案など総合的な情報発信と、拠点となる施設が必要である。また、来町者への案内ガイドを行っているボランティアは、重要な役割を果たしているが、次世代の担い手確保が課題となっている。

【方針】 地域の歴史や文化を学習するため副読本の作成及びガイダンス施設を整備する。またシンポジウムやワークショップを開催し、本町独自の歴史的風致と接する機会を増やすとともに案内ボランティアを育成する。歴史的建造物や史跡を周遊するコースの設定や起点となる情報発信施設の整備を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	国見町歴史文化読本作成事業	くにみ歴史本作成(4000部)	あり	H28～R6
2	歴史を活かしたまちづくり推進事業	歴まちシンポジウムの開催(R1までに10回)	あり	H26～R6
3	情報発信拠点整備事業	道の駅国見あつかしの郷オープン(H29.5)	あり	H27～H28
4	文化財保存ガイダンス施設整備事業	文化財センターあつかし歴史館オープン(H29.1)	あり	H27～H29
5	案内ボランティア育成事業	文化財ボランティア研修(27回)、案内人養成講座(9回)	あり	H27～R6
6	周遊性向上検討・案内板設置事業	旅づくりワークショップ(3回)、周遊モニターツアー等(29回)、周遊マップ作成(50000部)	あり	H27～R3

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

- 国見町歴史文化読本作成事業・歴史を活かしたまちづくり推進事業
国見町の歴史・文化および歴史的風致を分かりやすく紹介する教育普及冊子として「くにみ歴史本」を作成し、小中学校の地域教育・文化財案内ガイド育成用の教材として活用した。
- 情報発信拠点整備事業・文化財保存ガイダンス施設整備事業
H29.5に情報発信の拠点となる道の駅国見あつかしの郷がオープンし、来訪者の歴史文化資源の情報取得は格段に容易となった。(詳細:11ページ)
阿津賀志山防塁をはじめとする歴史文化資源のガイダンス及び周遊拠点となるあつかし歴史館がH29.1オープンし、活用が進んでいる。(詳細:12ページ)
- 案内ボランティア育成事業
文化財ボランティア研修、案内人養成講座を実施し、その中で実際に来訪者に説明することにより、ボランティアや案内人自身が町の歴史文化価値、魅力を再認識する契機となった。
- 周遊性向上検討・案内板設置事業
「旅づくりワークショップ」「周遊モニターツアー」をとおして、歴史文化資源と観光を結びつけたコースづくりを行った。参加者に好評で、十分な観光資源としての価値を把握した。
- 住民の「国見町歴史的風致維持向上計画」の認知度
「景観計画アンケート」認知度 31.3%（内訳）「内容も含めよく知っている」4.5% 「策定されたことは知っている」26.8%



文化財ボランティア等研修・養成講座の様子(H28.10.15)



国見町周遊マップ(H29)

④ 自己評価

様々な取り組みを通して町内外に情報を発信したことによって、本計画の認知度が高まるとともに、国見町ならではの歴史文化資源の認知度、興味・関心度が高まった。今後も本計画および歴史文化資源の認知度、興味・関心度を高めるため、継続した取り組みが必要である。

⑤ 今後の対応

計画そのものや関連する事業等について分かりやすい情報発信を心掛けつつ、歴史的風致の意識向上に向けた取り組みを継続する。また、情報発信と周遊の拠点である「道の駅国見あつかしの郷」、歴史文化と保管・収蔵・展示の拠点である「文化財センターあつかし歴史館」、整備に着手した「阿津賀志山防塁歴史公園（仮称）」、これらを案内する案内ボランティアの育成など、多数存在する町内の歴史文化資源同士を結び、点を線に、線を面に拡大する取り組みを推進する。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
方針	VI歴史文化遺産の総合的な把握の推進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 町内に伝わる歴史文化遺産は、文化財と認知され調査・評価されたものはごく一部であり、多くはその存在を把握されないまま、忘れさられ・埋もれてしまう可能性がある。震災以後、その傾向が顕著になりつつある。

【方針】 自らの住む町の歴史性や風土、伝統を知り、「町の誇り」を取り戻すため歴史文化遺産の所在調査や評価、把握のための悉皆調査を実施し、基礎資料をそろえ「歴史文化基本構想」を策定する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	地域の文化遺産の総合的な把握のための調査事業	祭礼・聞き取り調査(H27～R1) 建造物悉皆調査(H27・28)※再掲 文化財悉皆調査(H29)	あり	H27～R1
2	国見町歴史文化基本構想策定事業	策定委員会4回、パブコメ実施 R2.3.2に同構想を策定	あり	H30～R1

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

●地域の文化遺産の総合的な把握のための調査事業

町内の無形文化財を中心とした祭礼及び住民からの聞き取り調査(H27～R1)、歴史的建造物の建造物悉皆調査(H27・28)の基礎調査を重ねた。これらに文献調査の成果も加え、町内文化財のリスト化を行った(文化財悉皆調査:H29)。

総合的な把握は、町内の指定・未指定、有形・無形の文化財だけでなく伝承・人物・出来事・食なども含めて対象とした。国見町では、それらを「歴史文化資源」と定義し、総計13,657件を把握した。

特に食文化については、「国見町食卓図鑑」(H28)の作成において町内の食文化の掘り起こしを行い、行事食や郷土食の他、家庭に伝わる年中行事などを整理しており、その調査成果からも多くの歴史文化資源を把握することができた。

●国見町歴史文化基本構想策定事業

上記事業により把握した歴史文化資源から、国見町の歴史文化の特徴を明らかにし、「地勢と歴史」「風土と生業」「資源と産業」「信仰」をキーワードとする4つのストーリーを整理した。さらに、保存活用に向けた区域の設定・基本的方針・体制整備の方針をまとめ、同構想(骨子案)として作成した。

策定に向けては、同構想策定委員会を設置し、4回の委員会で骨子案に対する検討を行った。また、住民パブリックコメントと町文化財保護審議会からの意見聴取を得て、R2.3.2に策定した。

構想では、歴まち計画の事業をアクションプランとして位置付け、計画期間後に向けた住民主体・連携による歴史文化資源の保存と活用を図り、国見らしさを引き継ぎ、継承するための指針とした。



聞き取り調査(高城国見神社)(H30)



国見町歴史文化基本構想(R1)

④ 自己評価

調査事業では住民からの聞き取りを進め、策定事業では住民パブリックコメントを実施し、国見町歴史文化基本構想は、地域住民の意見を反映した構想とすることができた。また、国見町歴史的風致維持向上計画と連動する文化財保護行政のマスタープランとすることができ、計画期間終了後に取組みを継続していく各方針を定めた。今後の取り組みを進める上で、住民主体・連携の保存活用体制の整備が必要である。

⑤ 今後の対応

国見町歴史的風致維持向上計画と併せ、国見町歴史文化基本構想で定めた方針の実現に向け、住民団体と連携した調査・研究、文化財所有者・保存継承団体を支援・協力しながらの保存継承、歴史文化資源の価値の発信による理解を広げる取り組みを行う。また、同時に、住民主体・連携の保存活用体制整備のため、行政のコーディネータとしての役割を進める。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
効果	i 観光来客数の増加		

① 効果の概要

平成29年度以降の3年間において国見町への累計観光入込者数が400万人を突破し、交流人口が飛躍的に増大するとともに、文化財案内ガイドの利用者も増大している。

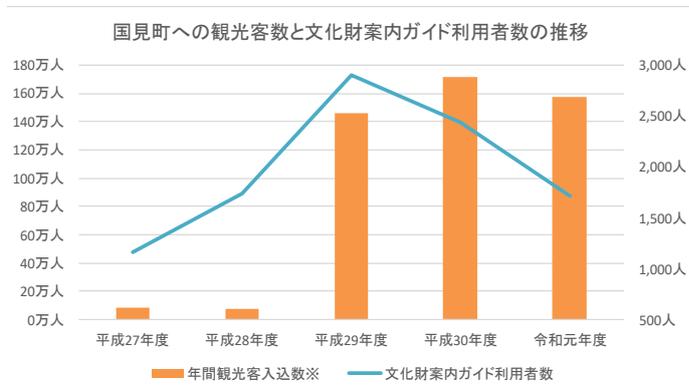
② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	都市再生整備計画(国見中央地区)	あり	H24～H28
2	国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略	あり	H27～R1
3	1000年のまち。これから100年のまちづくり基本計画～里まち文化交流都市構想～	あり	H25～R2

③ 効果発現の経緯と成果

国見町歴史的風致維持向上計画にて情報発信拠点整備事業として位置付け、関連する各計画に基づき整備した「道の駅国見あつかしの郷」が、H29.5月に開業した（詳細P.11参照）。道の駅は、町の魅力を発信する拠点として多くの来町者を迎え入れ、本町の歴史性を反映し旧藤田宿を会場とするイベントである「義経まつり」などとも連動し、開業年度以降の本町への観光入込客数は、年間最大171万人(H30)となり本町の交流人口を大幅に増大させている。

また、道の駅を中心とした歴史文化観光のツアー企画「くにみ周遊ツアー」の実施や周遊性検討事業による「周遊マップ」の作成により、周遊性の起点としての機能と役割を充実させている。



その結果、団体・グループ旅行者向けの文化財案内ガイド(国見町文化財ボランティア)の利用者数も増大しており、相乗効果により町内の歴史的風致・歴史文化資源の魅力を広く伝えることにつながっている。観光客の来訪とともに、国見町だけでなくその歴史的風内への関心が高まり、その価値や継承についての理解が広まる機会となっている。



「くにみ周遊ツアー」による歴史文化資源の見学(R1.8.2)

④ 自己評価

道の駅整備を契機に、観光入込者数が増大した状況は、町に賑わいを取戻し、歴史的風致・歴史文化資源への関心・理解が町内外にさらに広がる機会となっている。一方、文化財案内ガイドの利用者数は、R1に台風19号の被災・新型コロナウイルス感染症の影響により減少幅が大きくなっている。来訪者の安全・安心を確保しながら、継続した効果を得られるよう取り組みを続ける。

⑤ 今後の対応

今後も道の駅を中心とした観光客が見込まれることから、観光振興と連動した文化財案内ガイド事業の展開と魅力あるガイドを行う。また、道の駅を起点とし、文化財センターあつかし歴史館、阿津賀志山防塁歴史公園（仮称）を核としながら周辺の公共施設・歴史文化資源も含めた歴史的風致の魅力を感じることでできる周遊性の強化を進める。一方で、来訪者の安全・安心を確保するため、新型コロナウイルス感染症対策を十分に検討し取り組みを推進していくことが必要である。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
効果	ii 文化財の継承・啓発活動の充実		

① 効果の概要

文化財に触れる・学ぶ機会と継承に向けた機会を創出し、参加人数が増大。

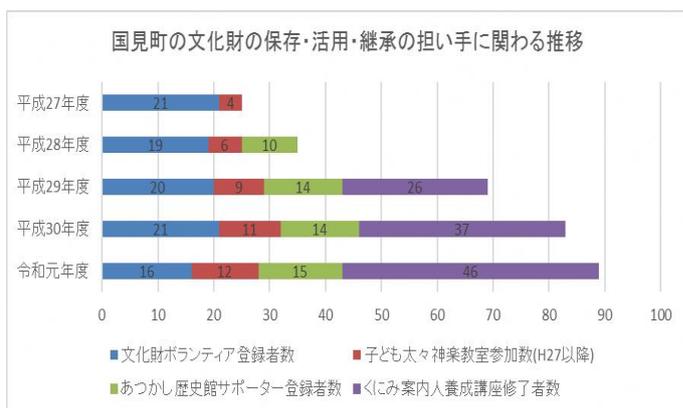
② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	国見町歴史文化基本構想	あり	R1～
2	国見町まち・ひと・しごと創生総合戦略	あり	H27～R1

③ 効果発現の経緯と成果

文化財保存継承団体や活用団体と連携を深めながら、シンポジウムや講演会、フィールドワークの開催による教育普及活動を行い、広く興味関心を高める活動を重ねた。合わせて、実際に文化財の保存・活用・継承に関わる担い手の確保に向けた取り組みを行った。

国見町の文化財案内ガイドを担う「文化財ボランティア」の養成講座、内谷春日神社太々神楽の後継者を育成する「子ども太々神楽教室」、H29に開館した「あつかし歴史館」の解説・運営を担うサポーターの募集・養成、町民の生業やノウハウを活かし各々の出来るところから始める国見のご案内を目指した「くにみ案内人養成講座」の取り組みを行った。各取り組みによる登録者数等の変動はあるものの、H27以降の保存・活用・継承に関わる担い手を増大させることができた。



子ども太々神楽教室の様子(R1.9)



くにみ案内人養成講座修了証交付(R1.10)

④ 自己評価

各種イベント等により町内外の人が国見町の多種多様な歴史文化に触れ、多岐にわたり学ぶ機会を創出し、裾野を広げる取り組みとともに、さらに担い手・後継者の育成につなげるため参加型の養成・育成事業を展開した。町民のもつ長所を活かすため、多様な活動の場・担いの場を設け、それぞれにおいて養成・募集を行ったことで、着実にその数を増やすことができたと考えます。

⑤ 今後の対応

国見町歴史的風致維持向上計画の事業進展に伴う成果の発信とともに、歴史文化資源の活用を図りながら啓発を継続し、保存・活用・継承に関わる担い手確保の取り組みを広げ、保存継承団体や住民が主体となり、行政と連携する協働の取り組みを拡大していく。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
取り組み	A 情報発信拠点整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>東日本大震災と原発事故からの復興を進めるため「1000年のまち。これから100年のまちづくり基本計画」を策定した。国見町の基幹産業である農業の再生を軸に、これまでこの地で培われてきた人々の知恵、文化、営みをもう一度見つめ直し、その良さを再発見し、発信するための指針とし、「里まち文化ステーション（道の駅）」を発信拠点とした。</p> <p>上記の計画に基づき、国見町の歴史文化資源を含めた国見町の魅力を発見、発信し、交流する現代の宿駅として「道の駅国見あつかしの郷」を整備した。施設内には農産物直売所、レストランの他、歴史産業情報コーナー、滞在型まち巡りができる宿泊施設も設けた。また、特徴ある大屋根は、国史跡「阿津賀志山防塁」の曲線とそれに連なる山並みをイメージしている。</p> <p>歴史産業情報コーナーは、町の情報を発信し、夏のシーズンには案内ブースを設け、文化財ボランティアが来訪者を案内するなど、歴史文化を巡る起点となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年3月 実施設計完了 ・平成27年10月 造成工事完了 ・平成29年3月 工事完了 ・平成29年5月 グランドオープン ・平成29年10月 入場者100万人達成 ・令和元年8月 入場者400万人達成 			
		 <p>道の駅国見あつかしの郷(上空から)</p>	
		 <p>文化財ボランティアによる案内</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>これまで本町には宿泊施設がなく、通過点であったが、宿泊施設を備え、滞在型のまち巡りができる道の駅として開業以来多くの来訪者・観光客が訪れている。歴史産業情報コーナーに案内ブースを設け、文化財ボランティアが町内を案内する周遊ツアーを展開した。これらの来訪者の一部がリピーターとなり、宿泊施設をの利用にも繋がっている。開業から半年で100万人、2年で400万人の来場者数は、道の駅としては驚異的である。</p>			
外部有識者名	阿部浩一（福島大学行政政策学類教授/国見町文化財保護審議会会長）		
外部評価実施日	令和2年4月14日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>「道の駅国見あつかしの郷」は、方針「V歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進」のうち「情報発信拠点整備事業」に対応する新たな総合的施設として、交流人口の増大という波及効果を生み出したことは数字的にも明らかである。「道の駅」への来訪がきっかけで周遊ツアーや祭礼などとの相乗効果をよんだことも、情報発信の推進に一定の役割をはたしていると評価される。今後は「あつかし歴史館」での市民活動や、歴史文化基本構想策定における調査成果などとも緊密に連動させながら、より親しみやすい歴史文化の情報発信拠点・交流拠点としての本来的役割を高めていくことが期待される</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>歴史産業情報コーナーとボランティア案内活動のさらなる充実を図る。また、周遊性の向上のため、道の駅を起点とし、歴史文化資源をコンテンツとした観光ルートの開発と交流人口の拡大を進める。</p>			

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1																				
取り組み	B 文化財保存ガイダンス施設整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設																				
<p>① 取り組み概要</p> <p>歴史文化資源の収集、研究および展示施設が十分でなかったことから、町内に数多く存在する歴史文化資源を後世に継承するため、平成24年3月に閉校した旧大木戸小学校の校舎を活用し、国見町文化財センター「あつかし歴史館」を整備した。これまでの発掘調査で出土した遺物をはじめ、多くの文化財史料の収集、分析、研究やガイダンスを行う。町内の魅力的な景観や史跡、建造物、人々の営みや信仰、祭礼などの生活文化を発信している。また、廃校活用における地域住民の意向を受け、かつての学び舎のように地域の人々が集う場所をめざし、地域が主体となったイベント事業を展開している。</p> <p>・平成27年12月 工事着工 ・平成29年1月 国見町文化財センター「あつかし歴史館」オープン ・令和元年5月 来館者10,000人達成</p> <p>【主なイベント：遊びと学びのミュージアム】 5月 こどもの日 （こいのぼりプロジェクト、ちまき作り、WSなど） 8月 七夕まつり （そうめん流し、七夕飾り、WSなど） 10月 あつかしまつり （芋煮、もちつき、歴史文化フィールドワーク〔高城国見神社〕、WSなど） 3月 ひなまつり （凧揚げ大会、民話かるた取り大会、WSなど）</p> <div data-bbox="949 309 1391 618" data-label="Image"> </div> <p style="text-align: center;">地域の方々に教わる七夕飾り</p> <div data-bbox="711 678 1350 1111" data-label="Figure"> <p style="text-align: center;">あつかし歴史館来館者数の推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>町内来館者</th> <th>町外来館者</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成28年度※1</td> <td>432</td> <td>465</td> <td>897</td> </tr> <tr> <td>平成29年度</td> <td>2,342</td> <td>2,191</td> <td>4,533</td> </tr> <tr> <td>平成30年度</td> <td>1,546</td> <td>2,129</td> <td>3,675</td> </tr> <tr> <td>令和元年度</td> <td>1,882</td> <td>2,089</td> <td>3,971</td> </tr> </tbody> </table> <p>※オープン後の3か月間の数値</p> </div>				年度	町内来館者	町外来館者	合計	平成28年度※1	432	465	897	平成29年度	2,342	2,191	4,533	平成30年度	1,546	2,129	3,675	令和元年度	1,882	2,089	3,971
年度	町内来館者	町外来館者	合計																				
平成28年度※1	432	465	897																				
平成29年度	2,342	2,191	4,533																				
平成30年度	1,546	2,129	3,675																				
令和元年度	1,882	2,089	3,971																				
<p>② 自己評価</p> <p>国見町文化財センター「あつかし歴史館」が整備されたことにより歴史文化資源の収集、研究および展示（ガイダンス）機能が強化された。また、この施設で地域住民が自発的に催しを行うことから、地域の拠り所、子どもから高齢者までが交流する憩いの場ともなった。</p>																							
外部有識者名	阿部浩一（福島大学行政政策学類教授/国見町文化財保護審議会会長）																						
外部評価実施日	令和2年4月14日																						
<p>③ 有識者コメント</p> <p>「あつかし歴史館」は、博物館をもたない国見町にとっては重要な役割をはたす歴史文化関連施設である。関係者の努力により、多様な研究・調査成果の発表・発信の場として十分機能しており、案内ガイドの育成・研修、市民に親しまれる文化活動・交流の拠点としても一定の役割をはたしていると評価される。ただ、現状では「道の駅」や阿津賀志山防塁史跡などとの連携が十分ではなく、歴史館の本来の機能が活かしきれていない。相乗の効果により、歴史的風致維持向上計画への町民の理解と主体的参加の向上が望まれる。</p>																							
<p>④ 今後の対応</p> <p>今後も文化財保護・活用、歴史まちづくりに関わる拠点施設として、道の駅国見あつかしの郷と連携し、文化財ボランティア、案内人のスキルを上げるとともに、展示内容を充実する。また、地域の拠り所として多くの地域住民が関わる地域が主体となったイベントなどの事業を支援する。</p>																							

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
取り組み	C 無形民俗文化財活動支援事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>無形民俗文化財の内谷春日神社太々神楽と鹿島神社例大祭の活動支援を行った。</p> <p>内谷春日神社太々神楽は、中断している演目復活のため、福島県田村市大倉の太々神楽保存会の指導を受け4座復活するとともに、全26座の映像を記録した。また、傷みの激しい神楽面3面を修繕した。さらに、教育委員会と共催し、「小学校総合学習における太々神楽体験学習」、「子ども太々神楽教室」を実施。教室生は地域だけでなく町内全域から募集することとし、新たな後継者の育成を図った。</p> <p>鹿島神社例大祭は、フォトコンテストの支援を行った太々神楽、例大祭ともに、ガイドブック・教育普及本を作成し、祭礼当日や小中学校に配付した。</p> <p>【主な取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鹿島神社例大祭調査（平成26年） ・小学校総合学習における太々神楽体験学習（H26～） ・内谷春日神社太々神楽映像記録作成・演目復活（平成27～29年） ・子ども太々神楽教室（平成27年～令和元年） ・鹿島神社例大祭フォトコンテスト（平成27年～令和元年） ・ガイドブック作成（平成27～28年度） ・神楽面修繕事業（平成30年） 			
		 <p>子ども太々神楽教室</p>	
		 <p>鹿島神社例大祭フォトコンテスト R元年度 最優秀賞作品</p>	
<p>② 自己評価</p> <p>全国的に少子高齢化と後継者不足で無形民俗文化財の継承が危ぶまれている中、記録保存、神楽教室開催、ガイドブック作成、面修繕は、関係団体の意欲喚起に資するものである。また、町内外での関心が高まった演目復活は、関係者の理解と知見者の指導と併せ、地域の力がまとまったからこそその成果である。</p>			
外部有識者名	阿部浩一（福島大学行政政策学類教授/国見町文化財保護審議会会長）		
外部評価実施日	令和2年4月14日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>無形民俗文化財の保全と継承が全国的課題となる中で、外部からの支援を受けて中断した座を復活させ、地域が結集して人材育成に取り組むなど、積極的姿勢は高く評価される。同様の課題に悩む自治体にとっても傾聴に値する好例といえよう。町による教育・観光・文化財保護など多様な側面からの支援も効果的に機能している。祭礼が地域や住民の精神的紐帯となることは、東日本大震災・福島第一原発事故を経験した福島県が最も強く自覚しているはずである。今後は町ならではの民俗文化にさらに対象を広げつつ、それらの継承と発展に努めていくことを期待したい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>積極的に国庫補助等を活用しながら上記事業を継続するとともに、関係団体との連携・支援に努め、普及啓発・情報発信を行う。また、歴史文化資源を観光コンテンツとしても活用することにより、気運醸成を図る。</p>			

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
取り組み	D 地域の文化遺産の総合的な把握のための調査事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>歴史文化基本構想策定に向けて、平成27～28年度に建造物悉皆調査を実施。建築後50年を経過した民家1608件（1963棟）、社寺74件（209棟）について1次調査台帳を作成した。</p> <p>平成29年度に文化財悉皆調査を実施。文献98点（国見町史、郷土史、文化財調査報告書等）、関連資料の調査、町民アンケートを実施し、歴史文化資源5424件をまとめるとともに、重要視すべきもの、特徴的なもの709件について文化財カルテを作成した。この間、講演会「国見町社寺建造物調査中間報告会」、シンポジウム「地域の文化遺産を活かした歴史まちづくりに向けて～あまり知られていないけれども、実はすごい国見の話」を開催した。</p> <p>平成30～令和元年度に、歴史文化基本構想策定委員会を設置し、骨子案の作成作業に着手。併せて、詳細調査、不足する情報収集のため聞き取り調査、ワークショップを実施した。</p> <p>策定委員会4回、庁内検討委員会5回、文化庁協議、パブリックコメントを実施し、12月25日に国見町歴史文化基本構想（案）を建議した。令和2年3月2日に策定した。</p>			
<p>② 自己評価</p> <p>国見町歴史的風致維持向上計画期間の前期5年で、課題であった歴史文化資源の総合的な把握を進め、これらの特徴を明らかにすることができた。これを受けて総合的な保存と活用を図るため、国見町文化財保護行政の指針となる「歴史文化基本構想」を策定した。本構想策定においては町民アンケート、聞き取り調査、パブリックコメントなどを実施し、地域住民の想いを反映した構想としてまとめることができた。</p>			<p>町民ワークショップ 「後世に伝えたい、残したい、私たちの営み」</p>
<p>外部有識者名</p> <p>阿部浩一（福島大学行政政策学類教授/国見町文化財保護審議会会長）</p>			
<p>外部評価実施日</p> <p>令和2年4月14日</p>		<p>歴史文化基本構想策定委員会</p>	
<p>③ 有識者コメント</p> <p>町の歴史文化資源の調査は、かつての『国見町史』編纂事業、伝統ある国見町郷土史研究会の活動、阿津賀志山防塁史跡などの継続的な発掘調査、近年では東日本大震災後の被災資料現況調査（福島大学と共同）などを先行事例とする。歴史文化基本構想の策定にあたっては、建造物、祭礼など歴史的風致維持向上計画に関連の深い分野を中心に新たな調査を進め、5000件以上の事例を蒐集した上で、歴史文化基本構想の策定に至ったことは評価できる。一方、かつての調査、特に歴史資料などは散逸・廃棄の危険性が高く、追跡調査が必須である。所有者、郷土史研究会、専門家・機関などと連携しながら、基本構想の実を上げることで総合的かつ有機的な歴史文化資源の活用をはかり、歴史的風致のさらなる維持向上につなげていくことを期待したい。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>引き続き、歴史文化資源の調査研究を進め、所有者・保存継承団体とともに町の魅力を共有し、観光振興や交流、歴史まちづくりによる地域活性化の取り組みを推進する。また、散逸、廃棄の危険性の高い歴史資料等の保存のため、調査などの取り組みを進める。</p>			

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
歴史的風致	1 阿津賀志山の合戦と顕彰・教育活動にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 阿津賀志山防塁の保存・活用に関する方針 IV 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善 V 歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進		

① 歴史的風致の概要

阿津賀志山と阿津賀志山防塁は、一体となって町の歴史性の根源となり、地理・風土を象徴するとともに、町民が共有して誇りを感じる場所となっている。阿津賀志山防塁を守ることが、町の歴史を顕彰することにつながり、小中学校の児童・生徒が、多くの経験を共有する場として、阿津賀志山に親しみを持つ。これらの保存に向けた取組みが継承されている情景は、多くの人々が阿津賀志山防塁を守り、町の歴史と誇りが受け継がれてきた歴史を感じさせる。

② 維持向上の経緯と成果

阿津賀志山と阿津賀志山防塁は、町のシンボルであり当町を代表する歴史的遺産である。

国史跡の追加指定（H27・H30・R1）と公有地化を進めるとともに、大雨による史跡のき損（土砂崩れ等）を防ぐため、暗渠管を埋設する雨水排水設備工事（R1）を実施し、史跡の保存を図った。

また、史跡景観を阻害していた樹木の伐採（H27～）により、良好な景観を形成し、周辺環境の改善を図った。

小学校で取り組んでいる「国見学（郷土学）」では、くにも歴史本を活用し、阿津賀志山防塁を学習した。文化財ボランティアの説明を聞き、現地を体感し、学んだことを自分たちでまとめ、学習発表会で発表することを通して防塁への理解を深めた。

町を代表する催しに、「義経まつり」「阿津賀志山ビックツリー」がある。「阿津賀志山ビックツリー」は、阿津賀志山の山頂に電飾を施し、ツリーに見立てるもので、年末年始の風物詩となっており、町内外に対し特に効果的な情報発信となった。

住民団体「阿津賀志山防塁活用推進懇談会」と「中尊寺蓮育成会」は、防塁に隣接する水田に広がる蓮の育成とともに、ワークショップの開催、阿津賀志山防塁ミニウォーク、蓮まつり、中尊寺ハス絵画コンクールを開催しており、意識向上と情報発信において大きな役割を担った。

阿津賀志山防塁歴史公園（仮称）については、下二重堀地区において造成工事を発注（R1～）し、駐車場とガイダンス施設等からなる整備工事に着手した。

※中尊寺ハスは、奥州藤原氏3代泰衡の首桶から見つかった種から開花した蓮。地元有志が中尊寺から株分けされた蓮を栽培している。



国見小学校郷土学習



国道4号北側地区（伐採前）



国道4号北側地区（伐採後）

③ 自己評価

阿津賀志山防塁の保存と景観改善が図られた。また、住民、学校、行政それぞれの立場で、阿津賀志山と阿津賀志山防塁を顕彰や教育の題材として活用している。特に「国見学」は、この地に生きる私たちに誇りを感じさせるものであり、地域住民の歴史的風致に対する理解と意識向上に繋がっている。

④ 今後の対応

今後も追加指定と公有地化、伐採等による保存と景観改善を図る。現在、整備予定を進めている「阿津賀志山防塁歴史公園（仮称）」について、史跡を体感し、阿津賀志山防塁への認識が高まるよう整備を進める。また、住民団体による住民主体、住民連携の取り組みと、「国見学」の活用も併せて推進し、歴史的風致の重要性を伝えていく。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
歴史的風致	2 旧奥州街道藤田宿における歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 伝統を反映した人々の活動の継承 III 歴史的建造物と街並みの保存・活用 IV 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善	V 歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進 VI 歴史文化遺産の総合的な把握の推進	

① 歴史的風致の概要

旧奥州街道の宿場町としてにぎわいをみせた旧藤田宿は、短冊状の町割りに明治期から昭和初期に建築された町屋や洋館、石蔵が現存し、国見町固有の景観が形成されている。
 旧藤田宿では、山車と神輿が激しくぶつかる、もみ合いを特徴とする「鹿島神社例大祭」と、江戸時代に行われた六斎市の名残をとどめる「農業市」「だるま市」が現在も行われ、街並みの歴史と伝統を反映した活動が多くのの人々により受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

旧奥州街道藤田宿では、毎年10月第3週の金曜・土曜に「鹿島神社例大祭」が開催されている。
 平成26年12月にこの例大祭を町無形民俗文化財に指定し、祭礼の保護と育成を図ることとした。また、ガイドブックを作成（H27）し、周知啓発に取り組んだ。さらに、例大祭への多くの参加を促し、理解を深めるために「鹿島神社例大祭フォトコンテスト」（H27～）を開催し事業支援を行っている。これにより、若年層の参加が増え、祭りに活気とにぎわいが戻ってきており、保存継承と情報発信に繋がった。



鹿島神社例大祭

一方、全町的な建造物の悉皆調査（歴史的町並み調査事業H27～28）を実施し、町内の歴史的建造物の全体像を把握するとともに、調査報告会を開催し、住民の歴史的建造物に対する理解が深まった。



旧藤田宿まち巡りツアー

さらに、景観計画策定に着手（H30～）し、「景観まちづくりアンケート」（H31.1）を実施した。歴史や文化等、地域の特色を残している町並みに「魅力を感じている」「やや魅力を感じている」とする人が半数を占める結果が得られた。

また、旧藤田宿内においては、建物の新築・改築において、旧藤田宿の景観と調和した建物とするなど景観に配慮した事例が見られるようになった。

国登録有形文化財「奥山家住宅」は、義経まつりに合わせた一般公開、まち巡りツアー、アフタヌーンティーパーティー、イルミネーションに合わせたライトアップを行い、歴史的建造物としてのその貴重さとすばらしさをアピールしている。

平成29年5月には周遊の起点となる「道の駅国見あつかしの郷」がオープンし、本年5月には来場者が400万人を超えた。多くの来訪者が訪れ、道の駅を起点に町内の歴史資源を巡り、にぎわいを創出している。

旧奥州街道藤田宿に趣のある建物が完成しました。



旧藤田宿の景観と調和した建物

東日本大震災により被災し、解体された奥山家土蔵跡地に、8月3日「保原薬局」がオープンしました。
 保原薬局の新店舗は、地主である「株式会社福富産業サービス」様のご理解・ご協力のもと、近隣の「奥山家住宅主屋」、「旧藤田宿」と調和する建物となっています。
 入口は若原屋の遺入りで、外壁には落ち葉した色合いを用い、看板には金文字があらわされています。時代とともに建物の変遷が読み取れる歴史を伝える歴史的な建物や町並みを活かして、本町の歴史を深めたまちづくりとして、関心を持って景観へ配慮した建物のひとつとして注目を集めています。

③ 自己評価

鹿島神社例大祭の中核を担う各若連は、盆踊りの開催や太鼓の演奏披露など、若年層の参加により活発に活動している。
 建造物悉皆調査やシンポジウムの開催により、住民の歴史的建造物に対する理解が深まり、旧街道沿いに面する商店は、改装する際、自主的に調和のとれた建物とする傾向が見られるようになった。

④ 今後の対応

引き続き鹿島神社例大祭の歴史的な意義や価値を周知するとともに、保存継承に向けた後継者育成を支援する。また、東日本大震災後に廃業や改装する商店が増えた藤田商店街（旧藤田宿）については、旧宿の景観維持のために景観計画の策定を進める。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
歴史的風致	3 旧奥州街道貝田宿にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 伝統を反映した人々の活動の継承 III 歴史的建造物と街並みの保存・活用 IV 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善 V 歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進 VI 歴史文化遺産の総合的な把握の推進		

① 歴史的風致の概要

貝田集落では、旧奥州街道貝田宿を中心に江戸時代の名残と明治期から昭和期の養蚕業を伝える町並みが残されている。町並みを歩けば、明治期から昭和初期の大変革及び大火を集落の人々が共に支え合い乗り越えてきた歴史の痕跡を見ることができる。その紐帯を強めてきた活動として、祭礼や最禪寺での観音講が継承され、無病息災を願い、人々の絆を深める活動として行われている。

② 維持向上の経緯と成果

昭和初期の養蚕業を伝える町並みと「国見石」を利用した石蔵が残る貝田地区で、歴史的建造物の悉皆調査を実施（H27～28）し、民家や寺社に多くの貴重な歴史的文化資源が残っていることが確認された。

また、福島大学や桜の聖母短期大学と連携して行った「大木戸まるごと博物館」（H30.1）や「貝田フィールドワーク」（H29.3）では、基礎調査や掘り起こし、貝田地区散策MAP作成などを行い、地域に伝わる郷土食や、国見石のかまどでの炊飯、昔ながらの養蚕住宅など、地域と学生が連携しながら地域の身近な歴史文化資源を再確認し、活性化の核にしようとしている。

また、これらの連携事業や秋の国見町応援ツアー（H27）を通して地域住民自身に、地域の歴史文化と歴史的遺産、歴史的建造物への再認識や来訪者をもてなす喜びが生まれた。



貝田フィールドワーク
（桜の聖母短期大学域学連携事業）



貝田地区散策MAP（福島大学域学連携事業）

③ 自己評価

学生たちや首都圏からのツアー客との交流をとおして、地域住民は貝田集落の「良さ」を再認識した。地域の歴史文化資源をもとに地域を活性化しようと、春秋の祭礼や郷土食を古民家でもてなすツアーなど、地域が自主的に取り組む活動に発展している。



古民家でもてなし（秋の国見町応援団ツアー）

④ 今後の対応

引き続き、祭礼等の支援を行うとともに、地域の歴史文化と歴史遺産、歴史建造物の活用による地域活性化に繋がる取り組みを支援する。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
歴史的風致	4 石蔵と石工技術にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	III 歴史的建造物と街並みの保存・活用 IV 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善 V 歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進 VI 歴史文化遺産の総合的な把握の推進		

① 歴史的風致の概要

国見石を産出する本町の特徴的な産業である石材業は、大正・昭和の歴史的な石蔵とともに守られている。石工技術により町内一円に建築された石蔵が、国見を特徴づける固有の景観となり残されている。

② 維持向上の経緯と成果

江戸末期より国見石の採石が始まり、様々な用途で利用されてきた。現在でも約500棟近くの石造建造物がある。

郡山女子大学の講師と学生による予備調査（H26）と本調査（H27）を実施。この調査は、「旧小坂産業組合石蔵」の国登録有形文化財認定（H28.8）に結びついた。

また、国見石を利用した建築方法の分析、旧採石現場の現地調査、石工の聞き取り調査等を実施し、当町独自の石工技術や石工道具の記録保存を行った。

すでに、国見石は採掘されていない。石造建造物も震災により多くが倒壊している。石工職人も高齢となり、引退していることから、現存する石造建造物の保存と活用が課題である。このため、「旧小坂産業組合石蔵」を会場に「石工（ロック）フェス」（H28～）を開催している。石材加工技術の体験や国見石の特徴及び他石材産地での活用事例などのシンポジウム、ワークショップを行い、周知啓蒙を図っている。



旧小坂産業組合石蔵調査



石加工体験（石工フェス）

③ 自己評価

身近にある国見石の建造物は、地域住民には見慣れた光景であったため、その貴重さの認識が薄かった。しかし、調査をすすめ、「旧小坂産業組合石蔵」が国登録有形文化財となったことから、あらためて国見を特徴づける固有の歴史遺産であることを地域住民に啓発することができた。また、石工フェスをとおして、国見石の歴史的価値の高さを発信することで、住民の景観に対する意識の向上につながった。



石工フェスチラシ

④ 今後の対応

引き続き、現存する石造建造物の保存と活用を推進し、周知啓蒙を図る。また、空き家となっている建造物の活用の協議を進める。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
歴史的風致	5 光明寺集落の水利用にかかわる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 伝統を反映した人々の活動の継承 III 歴史的建造物と街並みの保存・活用 IV 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善 V 歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進 VI 歴史文化遺産の総合的な把握の推進		

① 歴史的風致の概要

光明寺集落では、清らかで豊かな湧水が伝統的な水利用と信仰に結びつき、五穀豊穡への祈りと豊かな自然に対する感謝が込められ、人々の営みを支え、生活の拠り所となっている。江戸時代からの農村風景を受け継ぎつつ、清らかな湧水のもと続けられている人々の活動は、光明寺集落の成り立ちと寺社による発展、農村集落の歴史をあらわし、水路と一体となった光明寺集落の町並みとともに、清浄な空間を醸し出し、現在も歴史的な寺社が残る聖域を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

光明寺集落では、豊かな湧水のもと、寺社や家々が佇み、水田や畑が広がり、清らかな空間を醸し出している。

平成27年度から地域の総合的な文化遺産調査事業を実施した。現在も地域住民や氏子によって毎年行われている「御瀧神社滝普請」「御瀧神社祭礼」は、清らかで豊かな湧水とその神に感謝を表わすために、大滝と小滝の滝つぼと流れ出る水路を清掃し、浄めるものである。

常に管理され美しく清浄な大滝、小滝は「ふくしまの水30選」に選ばれており、周囲の清澄さも含めて地域住民の誇りである。これまで町内外から見学者が訪れていたが、県主催の周遊イベントである「コードF(H30)」への参加や、「くにみ周遊ツアー(R1)」の開催により、歴史的風致の更なる周知啓発が図られた。



御瀧神社の湧水



滝普請



くにみ周遊ツアー(R1.8)

③ 自己評価

調査事業では、町職員が住民と一緒に滝普請に参加し、情報収集を行い、信頼関係を構築した。また、地域が一体となって守り、継承している実態を把握することができ、効果的な周知啓発に繋がった。

④ 今後の対応

地域が一体となった活動が今後も継続できるよう支援する。また、湧水が暮らしと信仰に結びついた歴史資源であることや、「ふくしまの水30選」に選ばれている枯れることなく清らかな水が湧く景観の周知啓発を継続する。今後は、「道の駅国見あつかしの郷」から巡る周遊ルートに組み入れ、更なる周知啓発を図る。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
歴史的風致	6 内谷春日神社の祭礼にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 伝統を反映した人々の活動の継承 III 歴史的建造物と街並みの保存・活用 IV 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善 V 歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進 VI 歴史文化遺産の総合的な把握の推進		

① 歴史的風致の概要

内谷春日神社では、祭礼で奉納される太々神楽が明治15年(1882)より地区の人々の協力により継承されている。戦後、後継者不足等から中断されたが、地域の人々の働きかけにより、「内谷春日神社太々神楽保存会」が結成され復活。社殿に響く太鼓と笛の音色が、地区伝統芸能と祭礼のにぎわいを今も伝えている。

② 維持向上の経緯と成果

「内谷春日神社太々神楽」は、氏子の不足から昭和30年代～50年代にかけて中断した。昭和57年、内谷春日神社太々神楽保存会が結成され、復活。しかし全26座のうち22座の復活。国見町歴史的風致維持向上計画認定後、学術的記録保存(H27・28)、田村市大倉太々神楽保存会の指導を受け4座復活(H28・29)、神楽面3面修繕(H29)に取り組んだ。

後継者育成については、教育普及本「まんがで読む国見町内谷太々神楽ものがたり」を作成(H28)し、小中学校に配付した。また、町教育委員会と連携し、「小学校における太々神楽体験学習(H26～)」、「子ども太々神楽教室」(H27～)を開催している。子ども太々神楽教室においては参加者を内谷地域に限らず町内全域から募集し、新たな後継者を育成している。また、教室においては参加者の保護者も交えた交流が広がり、教室の成果を町の周遊ツアーや町文化祭で成果を披露するなど、継承や周知啓発といった活動が活性化している。



春の例大祭の様子(H27.4)
※4年に1度の神渡御を終えた人々



子どもたちへ絞太鼓・大拍子を教える保存会員

③ 自己評価

一度途絶えた「内谷春日神社太々神楽」は、地域住民の努力により復活し、長い年月をかけて継承されてきた。子ども太々神楽教室、教育普及本、神楽面修繕などの取り組みは同祭礼の継承、周知啓発に留まらず、関係団体の意欲向上と後継者育成の気運醸成を後押しした。なお、保存会の取り組みは、令和元年度福島県知事表彰を受賞した。

④ 今後の対応

内谷春日神社太々神楽の継承活動は、保存会が中心となって行っているが、継続した後継者育成が重要である。地区の神楽から、国見町全体で守り伝えるべき神楽との認識が広がりつつある。映像記録・普及啓発の冊子・道具(面)の修繕などの事業成果を得て、保存会と連携した取り組みを今後も継続する。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
歴史的風致	7 鳥取福源寺観音講にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	II 伝統を反映した人々の活動の継承 III 歴史的建造物と街並みの保存・活用 IV 歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善 V 歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進 VI 歴史文化遺産の総合的な把握の推進		

① 歴史的風致の概要

鳥取集落では、福源寺地蔵庵観音堂を観音講(観音様を守る会)の人々が守り、御朱印の押印とともに野菜・山菜などを用いた巡礼者へのもてなしや法会が行われている。観音様への祈りや感謝の思いは今も変わらず、さらに伝統・文化・歴史を大切にする地区住民の思いに継承され、活動が続けられている。

② 維持向上の経緯と成果

歴史的建造物悉皆調査(H27)として、鳥取集落の寺社・民家等の調査(1次調査)を行った。歴史的風致の中心となる「福源寺地蔵庵観音堂」については、建築史及び天井絵に関わる文化史からの所見を得た結果、その価値が明らかとなり、H30.3に国見町有形文化財(建造物)に指定した。

これまでも、観音講の人たちが、「信達三十三観音霊場」の巡礼者をもてなしてきたが、計画認定と観音堂の文化財指定などを契機に注目された。

併せて、信達三十三観音巡礼の霊場となっている福島市・伊達地方の寺院による霊場会が中心となり、バスで巡礼コースを巡る取り組みをH30から始めるなど、周辺地域とも連動した情報発信などの新たな動きも出てきている。

観音講の人たちは、観音堂の一部補修を行い、維持に努めている。町は工事に関わり指導・助言するとともに、町補助金を交付し、支援した。



町指定文化財の指定証書交付
H30.4



霊場会による信達三十三観音霊場のリーフレット

③ 自己評価

計画認定後、歴史的風致を形成する建造物の文化財指定を行ったことで、人々の意識と関心が高まった。

また、これらの結果として、活動の場となる歴史的建造物の修繕が地域主体で行われたことは、歴史的風致の向上につながる取り組みとなった。

④ 今後の対応

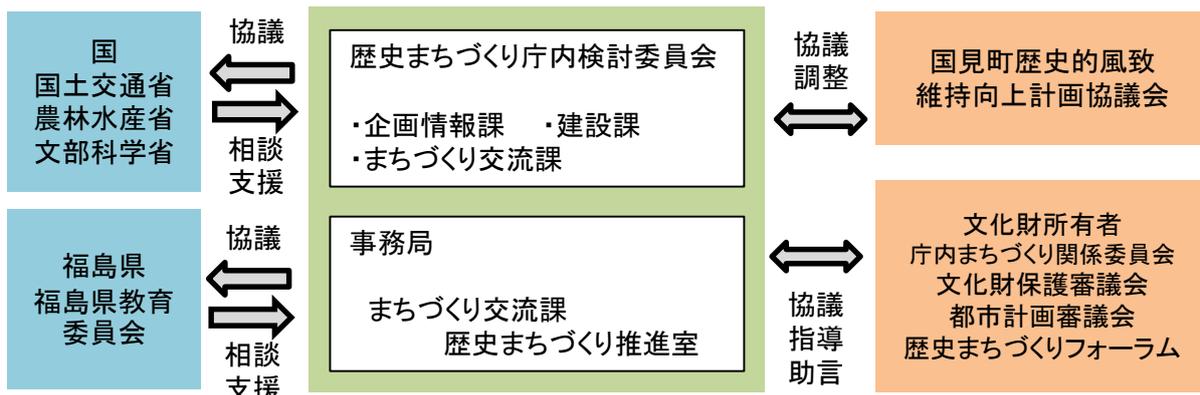
地域の人々が大切にしている歴史的風致を、多くの人々が関心を持つよう発信するとともに、地域における歴史文化資源の関連付けや情報収集を継続的に進める。保存継承を行う地域住民と意見交換を行いながら、歴史的風致の維持向上を図る。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
------	-----	--------	--------

① 庁内組織の体制・変化

国見町歴史的風致維持向上計画の認定当初は、企画情報課が事務局を、教育委員会生涯学習課が文化財保護業務をそれぞれ分担していた。これと併せ、関係する建設課、まちづくり交流課などからなる歴史まちづくり庁内検討委員会を設置し、庁内の調整を進めていた。

その後、H29.4の機構改革により、まちづくり交流課歴史まちづくり推進室が新設され、歴史まちづくり・文化財保護の業務が企画情報課・生涯学習課から移管・統合された。また、企画情報課・建設課・まちづくり交流課の3課による、庁内検討委員会を組織し、計画を推進している。



■計画の推進体制の図

② 庁内の意見・評価

- ・歴史まちづくりに関する取り組みを推進するため、「歴史まちづくり庁内検討委員会」を開催し、情報共有が図られてきた。
- ・「国見町教育委員会事務の補助執行に関する規則」（平成29年制定）により、教育委員会の権限に属する文化財に関する事務を町長部局の職員に補助執行させることを可能とし、まちづくり交流課において、歴史まちづくりと文化財保護の一元的な対応により、業務の円滑化が図られている。また、商工観光・道の駅連携の部署と同じ課内に組織されたことでより情報発信に関わる事業展開が可能となった。
- ・歴史公園の整備後の運営については、住民・民間団体による指定管理を目指すとともに、恒久的な活動ができる団体を育成していく必要がある。
- ・町道美化・無電柱化整備事業・奥山家住宅周辺整備事業の対象となる地域は町道幅員が狭く、住宅も密集しており、事業による地域住民への影響も大きいことから、住民の理解と協力を得られるように取り組む必要がある。
- ・町道美化・無電柱化整備事業・奥山家住宅周辺整備事業については財源の確保が課題であり、引き続き検討が必要である。
- ・国による財政支援を受け、前半期の各事業を進めてきたが、後半期の各事業における財源確保、ソフト事業の補助が無くなった場合も事業継続できるよう検討していく必要がある。
- ・東日本大震災東北電力福島第一原子力発電所事故からの復興に向けた中において、地域の歴史的風致を見直し、整備・発信することが、町に対する誇りや愛着を取り戻すことに大きくつながったと考える。
- ・復興創生期間が終期をむかえ、財政規模が縮小する中での、計画後半期の取り組みをどの様に実施するか、事業内容も含めた検討が必要である。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
------	-----	--------	--------

① 住民意見

「国見町第6次総合計画策定に向けた町民アンケート」から
 （実施期間 令和元年10月28日～11月15日 回答者数557人）

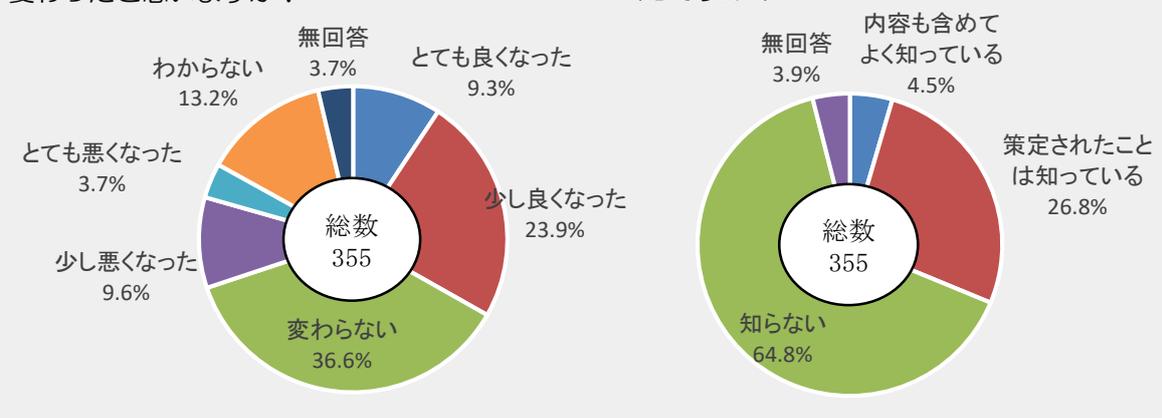
○これまで町が取り組んできた様々な施策についてどの程度重要だと思えますか？
 またどの程度満足していますか？（0から10でそれぞれ点数をつけてください）
 ⑳歴史や文化財の保護と活用 重要度 3,559ポイント 全32施策中26位
 満足度 2,962ポイント 全32施策中7位

⇒重要度の認識は高くないが、取組みに対する満足度は消防・教育・健康・高齢者支援・居住環境等の取組みに続いて高く、歴史まちづくりに関する取組みへの理解と評価を得ている。

「国見町の景観まちづくりアンケート調査結果」から
 （実施期間 平成31年1月18日～1月31日 有効回答355人）

○全体的な印象として、「国見町の景観」は最近（おおむね10年程度を振り返って）どのように変わったと思いますか？

○平成27年2月に策定された「国見町歴史的風致維持向上計画」を御存知ですか？



⇒本計画は認知度が31.3%、「よく知っている」が4.5%である。歴まち計画の認知度が一般的に1割～2割に留まる中で、本計画の認知度は3割を超えており、本計画に基づく各種取組みが、認知度・理解度の向上に効果的であったものと理解される。また、近年の景観の変化については「変わらない」が36.6%を占めるものの、良くなったとの回答は33.2%と、悪くなった13.3%を大きく上回る。景観を大きく変える要因はないが、周辺にある歴史文化資源を可視化する取組み（各歴史的風致の情報発信事業および文化財の指定・登録）により、景観に対する印象が向上したとの反応につながったものと理解される。

② 協議会におけるコメント

（令和2年6月1日～12日書面表決開催の国見町歴史的風致維持向上協議会でのコメント）

- ・全般的に歴史文化事業に対する認識を広める活動を行っており、更なる活動の充実を期待する。認知度が低いようなのでアピールをお願いしたい。
- ・P.22末尾にある原発事故からの心の復興に本事業が寄与している点はぜひ全体の評価でも強調して頂きたい。またガイド、サポーター等の育成、活用も全国に誇るべき成果で、食文化の掘り起こしについても記載・強調して頂きたい。P.23の計画認知は一般的には1～2割にとどまるので、26.8%、+4.5%は誇るべき数字であるので、そのように記載頂きたい。
- ・いずれの事業も成果が上がったようで感謝する。今後のためにコロナ対策を考えるべきである。
- ・外部有識者評価のように事務局評価においても、成果だけでなく課題も明確にすべきである。
- ・町主催で行われている各種行事に奥山家住宅も参加しており、当建物ができて今年で100年を迎えるが、新型コロナウイルスの感染抑制のため各種行事が中止され、今迄盛り上がっていた国見歴史まちづくりがしぼんでしまう事を心配している。なお、奥山家住宅周辺の景観計画については是非実施される事を期待する。

市町村名	国見町	評価対象年度	H27～R1
<p>① 全体の課題</p> <p>【阿津賀志山防塁の保存・活用に関する方針】 顕彰、教育活動の場としての整備が十分でなく、史実と史跡を時代・空間軸の中で理解・体験できるようなガイダンス施設充実が必要である。</p> <p>【伝統を反映した人々の活動の継承】 これまでの取り組みが普及啓発や継承に関わる意識醸成に繋がっている。これまでの取り組みと成果が、更なる取り組みにつながる好循環を生み出すよう継続した支援が必要である。</p> <p>【歴史的建造物と町並み保全・活用】 貴重な文化財であることの所有者・地域住民の認識が希薄であるため日常的な維持管理が行き届いていない。また、良好な歴史的町並みを形成する建造物が放置され経年劣化が進んだり、取り壊されたりしている状況になっている。</p> <p>【歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善】 市街地や農村集落では、管理が十分ではない建造物の増加や、建物の除却による空地や駐車場の増加が目立ち、良好な景観が阻害されている状況にある。</p> <p>【歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進】 地域住民の理解を深め・意識を向上させるため、今後も本計画および歴史文化資源の認知度、興味・関心度を高めるため、継続した取り組みが必要である。また、来町者が歴史文化資源を体験するために、周遊性をさらに向上させることが必要である。</p> <p>【歴史文化遺産の総合的な把握の推進】 国見町歴史的風致維持向上計画と併せ、国見町歴史文化基本構想で定めた方針の実現に向けた取り組みが必要である。また、住民主体・連携の保存活用体制の整備が必要である。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>【阿津賀志山防塁の保存・活用に関する方針】 阿津賀志山防塁の史跡および周辺の整備を整備計画に基づき、下二重堀地区における歴史公園整備事業を進め、ガイダンス機能の充実を図る。</p> <p>【伝統を反映した人々の活動の継承】 各事業の成果が地元・関係者の継承に向けた取り組みにつながる好循環が今後も生み出せるよう、無形民俗文化財に対する支援を継続して進める。</p> <p>【歴史的建造物と町並み保全・活用】 建造物悉皆調査等で把握した歴史的建造物をリスト化し、対象となる所有者と連携を図るとともに、理解と協力を得て保存と活用に向けた取り組みを推進する。</p> <p>【歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善】 景観計画を策定し、景観保全に向けた制度整備を行う。また、町道美装化・無電柱化、奥山家住宅周辺公園整備事業などの事業に着手し、歴史的建造物・遺産を取り巻く環境の改善に向けた取り組みを推進する。</p> <p>【歴史的風致に対する意識の向上と情報発信の推進】 計画そのものや関連する事業等について分かりやすい情報発信を心掛けつつ、歴史的風致の意識向上に向けた取り組みを継続する。また、「道の駅国見あつかしの郷」をはじめとした拠点と町内の歴史文化資源同士を結び、点を線に、線を面に拡大する取り組みを推進する。</p> <p>【歴史文化遺産の総合的な把握の推進】 住民団体と連携した調査・研究、文化財所有者・保存継承団体を支援・協力しながらの保存継承、歴史文化資源の価値の発信による理解を広げる取り組みを行う。また、同時に、住民主体・連携の保存活用体制整備のため、行政のコーディネータとしての役割を進める。</p>			